

令和6年6月29日（土）

もりおか史跡・遺跡めぐり



令和6年度の積み上げの様子

盛岡市遺跡の学び館

盛岡城の特徴

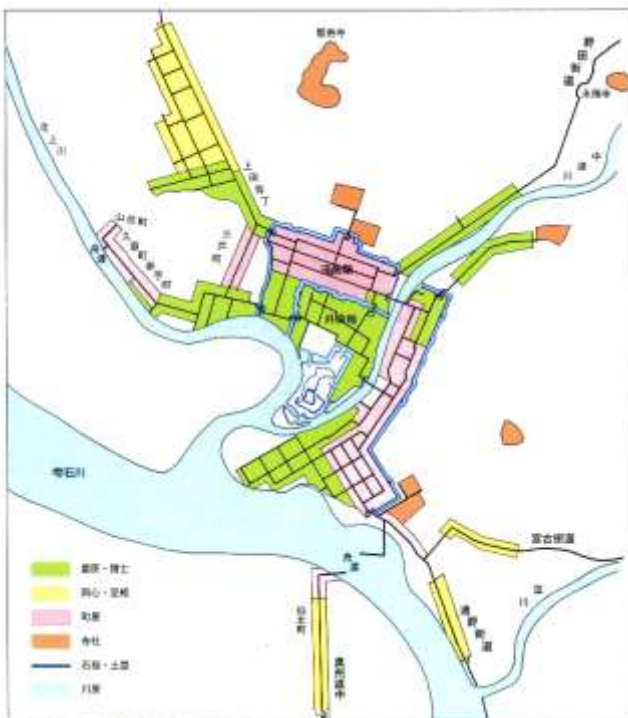
盛岡城が置かれた場所

盛岡城は、初代盛岡藩主の南部信直と、その子の2代藩主利直が、慶長2年（1597）頃から寛永10年（1633）の約40年もの歳月をかけて築いた南部氏の居城です。

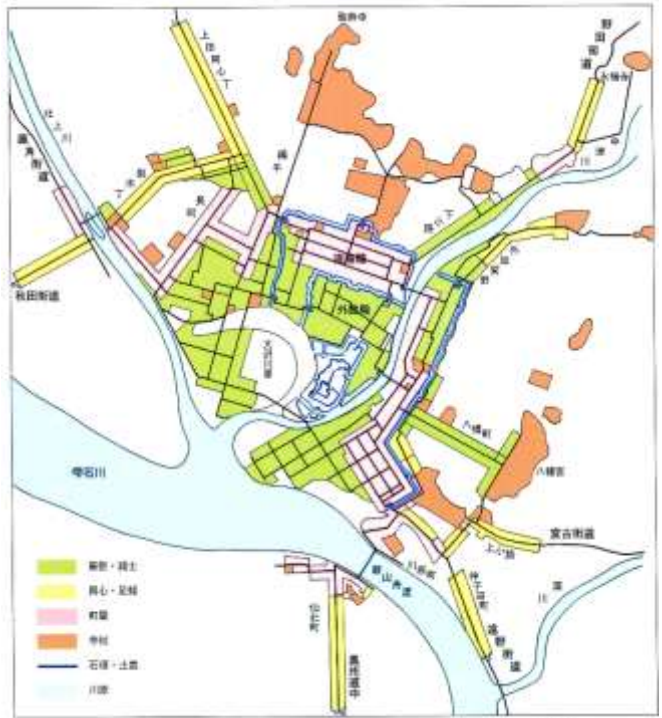
現在は地形が変わりましたが、当時は旧北上川と中津川が合流する丘陵地を利用して築かれました。このように平野の中の丘などに築城された城は「平山城」という城の分類にあたります。

城の周囲には防衛のために堀を設置することが多いですが、盛岡城の西部と南東部は先述した2つの河川に囲まれていたため、これらを天然の外堀として利用しました。また、人の移動や物の運搬などにも水路を利用していたようです。現在のような川の流れになったのは寛文13年（1673）から始まる河川改修を行ってからとなります。（図1・2参照）

【図1】江戸時代初期の盛岡城下



【図2】江戸時代中期の盛岡城下



曲輪について

城は一般的に「曲輪（郭）」と呼ばれる区画で構成されており、城の守りのために本丸を中心に曲輪が何層にも重なっています。盛岡城は大きく分けて「内曲輪」・「外曲輪」・「遠曲輪」というように区分されています。曲輪は河川に囲まれていない北部～南東部に主に広がっており、本丸を含む城の主要部分を内曲輪、その外側を外曲輪、さらに外側を遠曲輪と呼んで

いました。

また、内曲輪は本丸・二ノ丸・三ノ丸と称する曲輪にのまる・さんのまるに細かく分けることができます。盛岡城は、本丸・二ノ丸・三ノ丸の順に各曲輪が北側に向かってほぼ一直線に並ぶ「連郭式」の構造になっています。連郭式の構造は本丸の北側の守備は強固になりますが、南側は手薄になってしまうため、「腰曲輪」と呼ばれる細長い曲輪こしくるわを南側に置いて守備を固めました。

○内曲輪

城の主要部分。本丸、二ノ丸、三ノ丸、淡路丸あわじまる（腰曲輪）などで構成。

現在の盛岡城跡公園～櫻山神社参道付近。

○外曲輪

南部氏一族や重臣じゅうしん（身分の高い家来）の屋敷が集まる。

現在の内丸付近。官公庁街や内丸メディカルセンター、岩手銀行本店、もりおか歴史文化館、芝生広場を含む地域。

○遠曲輪

武家屋敷や町人街。

現在の本町通、中ノ橋通、神明町、清水町、南大通付近。



◀ 連郭式の図

盛岡城は北側に向かって曲輪（郭）が
連なっています。

盛岡二十三町

現代に残る江戸時代の町名

盛岡では、盛岡城の築城と同時期に城下町の整備も始まりました。慶安4年(1651)には遠曲輪の外内に町人街である「盛岡二十三町」が成立し、文化9年(1812)にその内いくつかの町名を変更しています。また、武士が住む町と区別するために、同じく文化9年に町人街は「町」の字を「丁」に改められました(馬町・十三日町を除く)。(表1・図1参照)

【表1】「盛岡二十三町」の変遷

慶安4年(1651)	仙北町	川原町	石町	馬町	六日町	十三日町	新町
文化9年(1812)	仙北丁	川原丁	穀丁	馬町	六日丁	十三日町	呉服丁

八幡町	肴町	葺手町	紺屋町	鍛冶町	紙町	本町(京町)	八日町
八幡丁	肴丁	葺手丁	紺屋丁	鍛冶丁	紙丁	本丁	八日丁

大工町	油町	寺町	四ツ家町	三戸町(田町)	長町	材木町(岩手町)	久慈町
大工丁	油丁	花屋丁	四ツ家丁	三戸丁	長イ丁	材木丁	茅丁

仙北丁と三戸丁は、それぞれ出羽国仙北郡(現在の秋田県仙北郡)と三戸城下出身の人々が住んでいたため、出身地名がそのまま町名になりました。

その他の町名は、当時そこに住んでいた人々の職業や、集まっていたお店に関するものが多くなっています。現在でも使用されている町名もあり、市内27カ所には旧町名の由来を記した説明板が設置されています。ぜひ市内を散歩しながら江戸時代の城下町の様子を想像してみてください。(巻末のマップ参照)

旧町名の由来の例

○肴丁：現在の肴町

鮮魚や乾物を扱う魚商人や荒物(日用雑貨)商人が住む町だったことに由来。その他にも多くの商家が集まり、盛岡城下・河南の中でも特に栄えた町。

○材木丁・茅丁：現在の材木町

材木丁は、北上川の春木場(薪を溜めていた場所)が対岸にあり、材木商が盛んだったことに由来。

茅丁に改名される前の久慈町は、久慈方面からの移住者が多かったためそう称された。

盛岡城の石垣

石材の調達・加工

盛岡城最大の特徴は、東北地方では珍しく、主要な曲輪が総石垣造の城であることです。盛岡城は花崗岩体の上に築城されており、石材は盛岡城の城内（内曲輪）など近場で調達していました。石材を切り出して加工する場所は「石切丁場」といい、盛岡城は全国的にも珍しく城内に石切丁場がありました。

当時は大きな石を割るために、鉄製の矢（くさび）を打ち込んでいました。その矢を打ち込んだ痕である穴を「矢穴」といい、現在でも盛岡城の石垣で見ることができます。また、矢穴の大きさは時期によって異なるため、石垣が築かれた時期を推測するために役立ちます。

- 盛岡城1期（慶長2年（1597）以降） → 9～13cm
- 盛岡城2期（元和3年（1617）以降） → 14～21cm（最大）
- 盛岡城3期以降（寛文8年（1668）以降） → 4～6cm（最小）



▲ 盛岡城2期の矢穴



▲ 盛岡城3期以降の矢穴

石垣の積み方

石垣は石の加工によって積み方が異なり、主に「乱積」と「布積」の2種類に分けられます。このほか、石垣を積むにあたって重要な隅角部（コーナー）には、「算木積」という技法が用いられています。

盛岡城の石垣は12種類もの方法で積まれているため、ぜひ公園内を巡りながら観察してみてください。（7ページ図3参照）

○乱積：

大きさが統一されていない石を積み上げる方法。石の大きさがバラバラなため横方向の列が揃っていない。

盛岡城の石垣では、自然の石を加工せずに積む方法（野面積）と、加工して石同士が接合する部分を増やす方法（打込接）が確認されている。

○布積：

石を同じ大きさに加工し、水平に揃えて積む方法。横方向の列がほぼ揃っているという特徴を持つ。



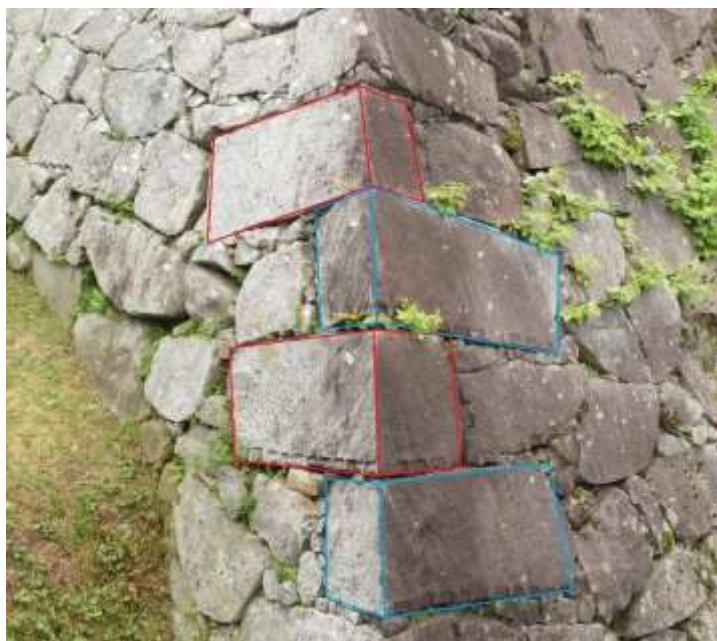
▲ 乱積（淡路丸南側）



▲ 布積（二ノ丸西側）

○算木積：

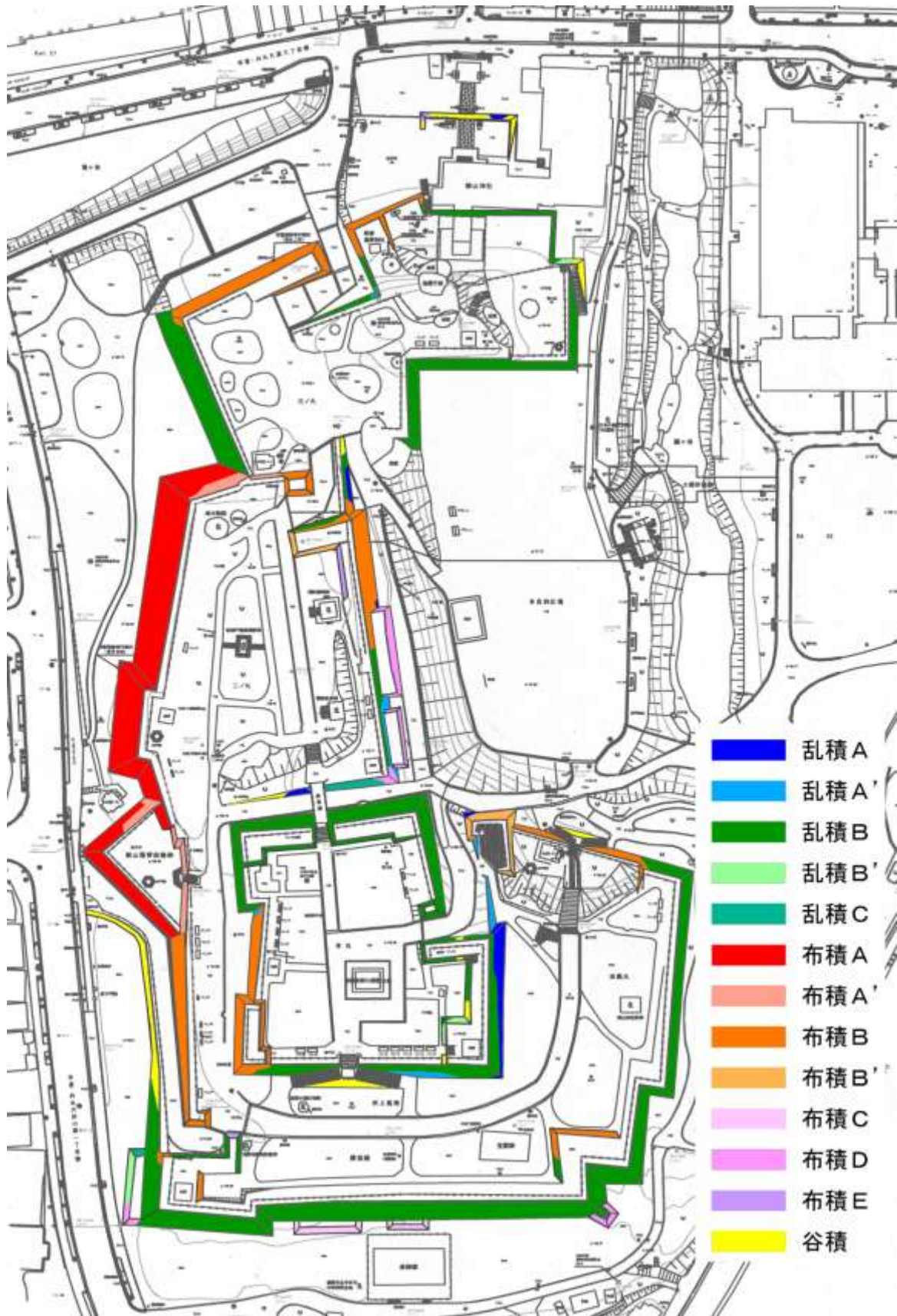
長方形に加工した石の長辺と短辺を互い違いに積む方法。



◀ 算木積（三ノ丸北西部）

色を付けた石を見ると、互い違いに重なっていることがわかります

【図3】盛岡城の石垣分類図



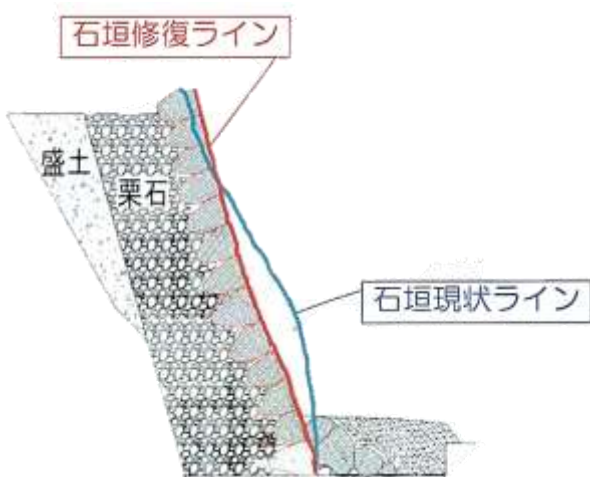
盛岡城の石垣修復工事

三ノ丸北西部石垣修復工事

現在修復工事を行っている三ノ丸北西部の石垣は、^{げんな}元和3年（1617）から元和5年（1619）に構築され、当時は乱積で積み上げられました。しかし、江戸時代のたび重なる地震によって石垣が崩壊し、^{ほうえい}宝永2年（1705）に布積で積み直されました。

盛岡市では、平成11年度（1999）から石垣変位調査を行っており、石垣がどのくらい動いているのかを調査しています。その調査の結果、三ノ丸北西部の石垣は本来の^{かたむ}傾きよりも最大で70cmも膨らみ出していることがわかりました。

そこで、令和3年度（2021）から石垣14段、^{つきいし}築石343石の解体修復工事を行うこととなり、令和3・4年度に解体を行い、昨年度からは積み上げを行っています。今年度中には長きにわたる修復工事が完了し、皆さんの前にお披露目できる予定となっています。



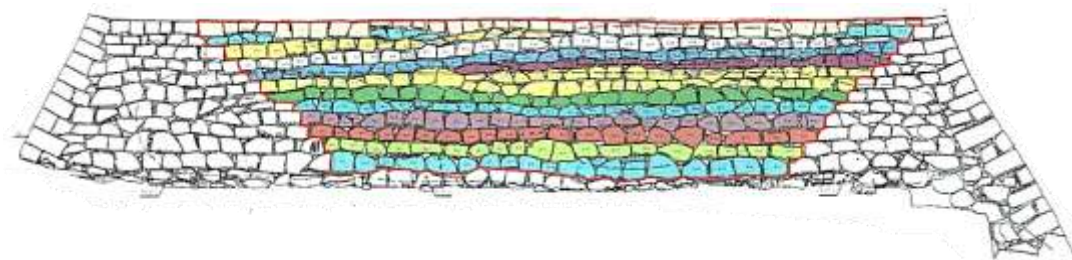
▲ 三ノ丸北西部石垣の断面図

▲ 解体前の三ノ丸北西部石垣を横から見た図

「石垣現状ライン」が膨らんでいることが
わかります

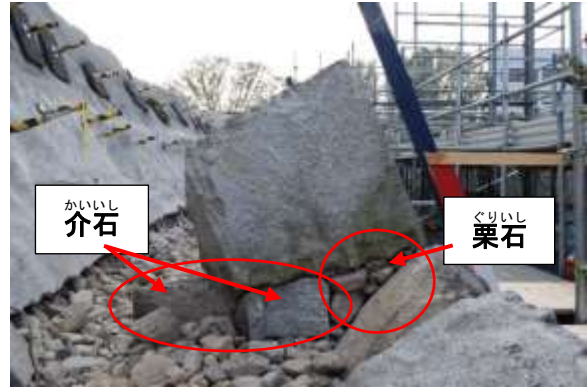
▼ 三ノ丸北西部石垣の解体修復範囲

赤線で囲まれ、色が付いている範囲を解体修復





▲ 築石を積み上げる様子



▲ 積み上げ後の築石を横から見た図



◀ 横から栗石を詰める様子

築石を固定・安定させるために、新たに「介石」を設置しました。
隙間には「栗石」を詰めていきます。

文化財の保存

盛岡城の石垣は、江戸時代に構築・修復された貴重な文化財です。現在私たちは約 300 年ぶりに石垣の修復を行っていますが、ただ綺麗に積み直すことだけが目的のではなく、いかに築かれた当時の姿に戻し、未来に残していくかが重要となります。そのため、修復する石垣は最小限にし、元々あった石垣をできるだけ残すようにしています。

また、何十年、何百年後かに石垣の修復を行うことになった際に、令和の修復工事ではどのようにしたのかがわかるように、また、江戸時代本来の加工と令和の施工の区別ができるように、映像・写真・メモなどで記録をとっています。



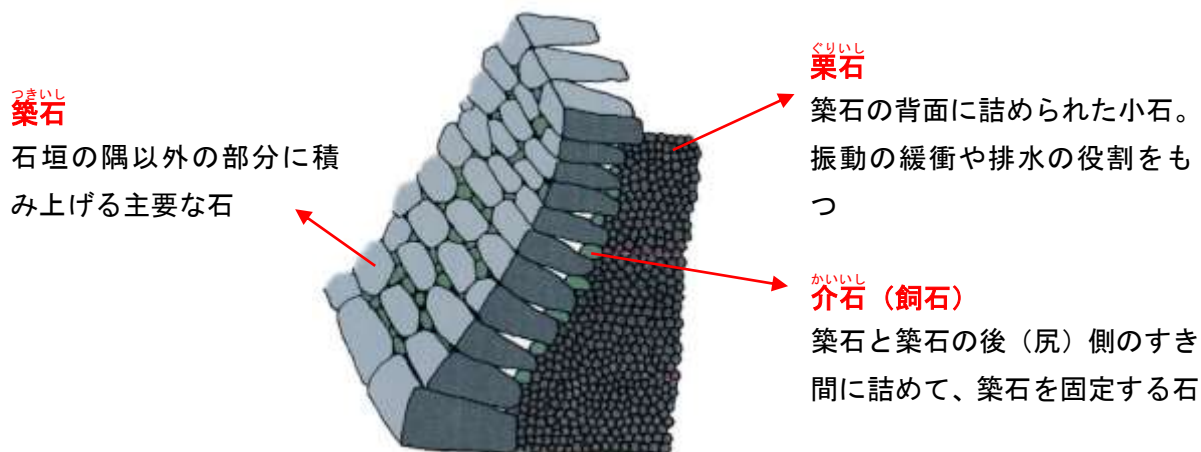
▲ 令和4年度の石垣解体の様子



▲ 石垣の調査カード

【語句解説】

- ・ 曲輪：
堀、土塁（土を盛って築いた 砦）、石垣などで区画された空間（エリア）。
- ・ 本丸：
城主の居所で、多くは天守（天守閣）を築き、周囲に堀を設ける。
- ・ 腰曲輪：
帯曲輪と呼ぶ城もある。本丸などの主要曲輪の周囲にある細長い曲輪。山城や平山城に例が多い。



【参考文献】

- ・ 岩手県文化スポーツ部文化振興課「新都市・盛岡の誕生」「いわての文化情報大事典」
<http://www.bunka.pref.iwate.jp/archive/bp22>
- ・ 岩手県立図書館館長荻原芳編『岩手史叢 第四巻 内史畧（4）』岩手県文化財愛護協会、1974年
- ・ 近世文書研究所「きろく解説館 盛岡二十三町 盛岡砂子」「近世こもんじょ館」
https://www.komonjokan.net/cgi-bin/komon/kirokukan/kirokukan_view.cgi?mode=details&code_no=90698
- ・ 三浦正幸『城のつくり方図典』株式会社小学館、2005年
- ・ 盛岡市『盛岡市史 第二巻（復刻版）』トリョー・コム、1979年
- ・ 盛岡市「盛岡市町名由来記について」
<https://www.city.morioka.iwate.jp/kankou/kankou/1037106/rekishi/1009408/1009409.html>
- ・ 盛岡市史編纂委員会編『盛岡市史 第三分冊二』盛岡市庁、1968年

盛岡市遺跡の学び館
令和6年6月29日
〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋13-1
Tel. 019-635-6600 Fax. 019-635-6605
検索 盛岡市 遺跡の学び館